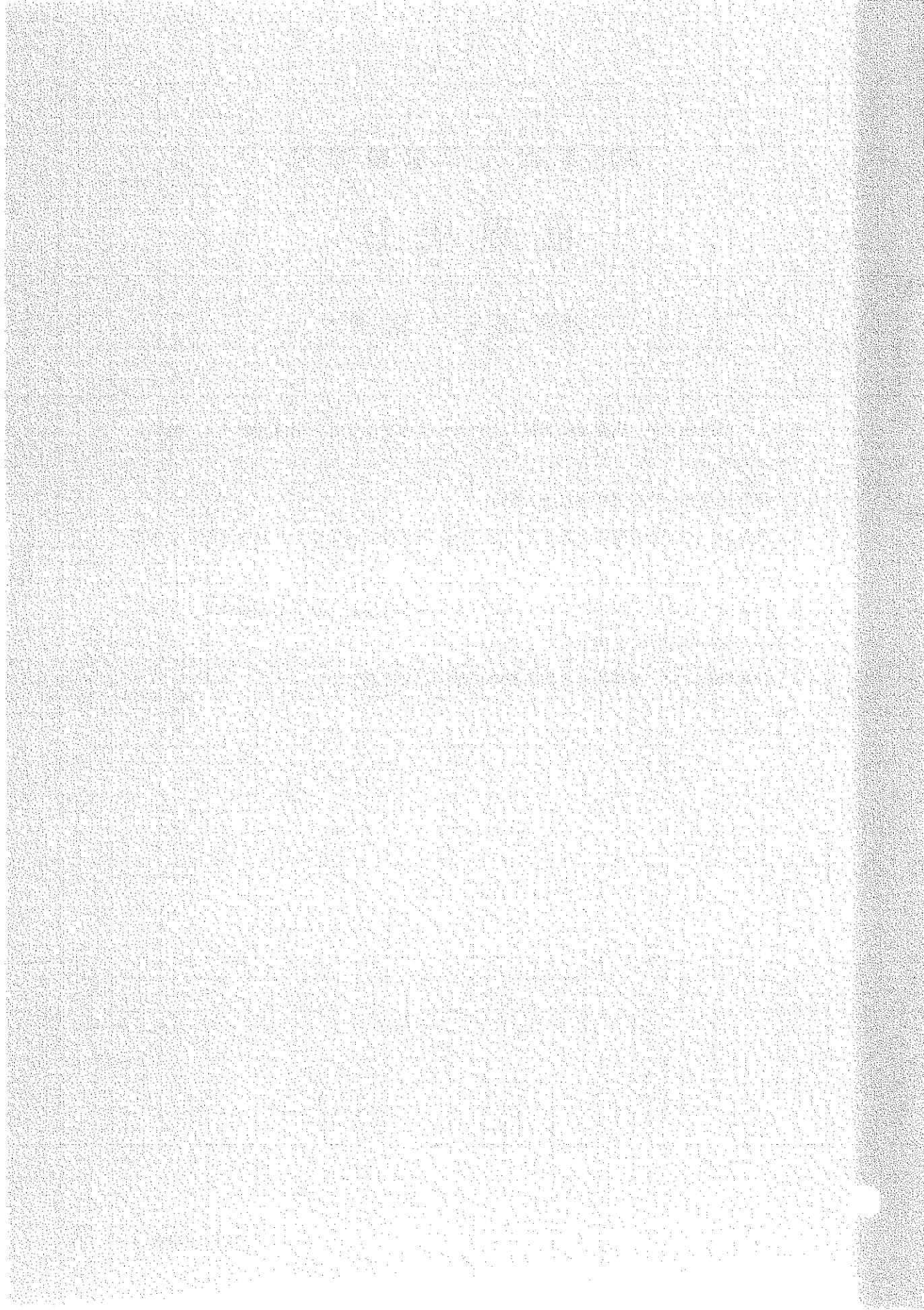


2018 年度 入学 試験 問題

世界史 B

(試験時間 14:50~15:50 60分)

1. この問題冊子が、出願時に選択した科目のものであることを確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙のみです。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。



I 9世紀から15世紀におけるロシアおよび東欧地域について述べた次の文章（A～D）を読み、下線部(1)～(10)について下記の【設問】に答え、解答用紙の所定の欄にその答えを正しく記入しなさい。（20点）

A ルーシ（ルス）と呼ばれるノルマン人の一派が、ドニエプル川<sup>(1)</sup>流域のスラヴ人地域に進出して、9世紀にキエフ公国<sup>(2)</sup>をたて、10世紀にはビザンツ皇帝と姻戚関係を結ぶなど、その勢いを誇った。しかし、11世紀後半に生じたキエフ大公位の継承をめぐる争いを一つの契機に、キエフ公国に衰退の兆しが見え始め、12世紀以降、このあたりには諸侯が分立するようになった。

B ノルマン人がロシアやその他のヨーロッパ各地に移動していた時期に、アジア系の人々が黒海北岸から西ヨーロッパに侵入した。彼らは、10世紀半ばにオットー<sup>(3)</sup>1世に撃退された後、同世紀末にハンガリー王国をたてた。また、その西方では、スラヴ系の人々がポーランドやベーメン（ボヘミア）に王国を築いた。ベーメン王国は、神聖ローマ帝国と強い結びつきを持ち、11世紀に神聖ローマ帝国に編入された。1356年に金印勅書を発布した神聖ローマ皇帝はベーメンの出身であった。<sup>(4)</sup>

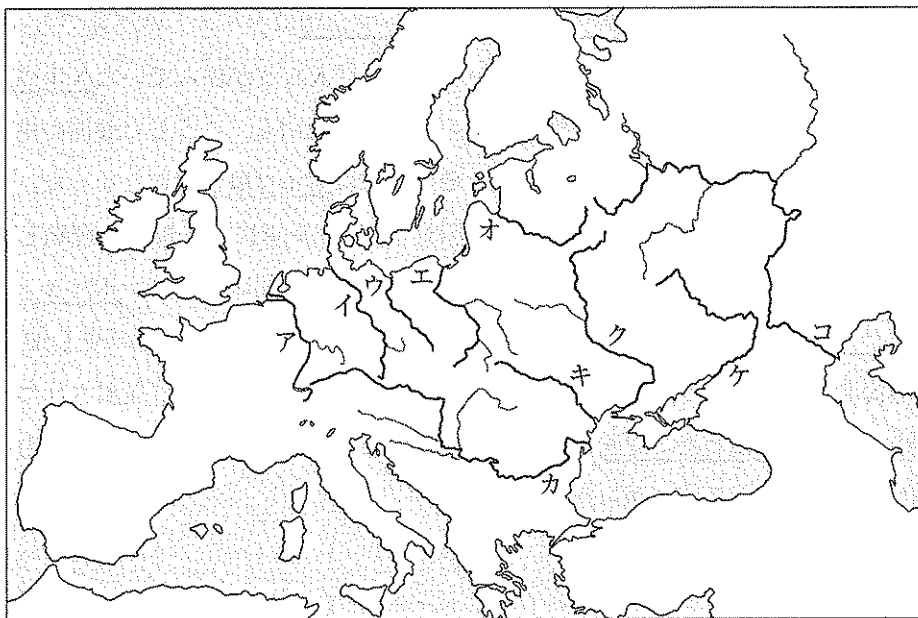
C 12世紀から14世紀にかけては、かつてスラヴ人などが住んでいたエルベ川<sup>(5)</sup>以東の地にドイツの諸侯が領土を獲得した。ドイツ騎士団も、こうした展開の中でバルト<sup>(6)</sup>海沿いのヴィスワ川流域に入植し、その領域はドイツ騎士団領<sup>(7)</sup>となった。

D ロシアおよび東欧地域は、13世紀半ば、モンゴル軍による侵入を経験した。モンゴル軍は、キエフ公国を含めたロシアの広い地域を征服した後、ポーランドでド<sup>(8)</sup>イツ・ポーランド連合軍を破り、さらにハンガリーを襲った。その後1480年まで、黒海北岸から南ロシアの草原地帯はキプチャク＝ハン国によって支配された。彼ら<sup>(9)</sup>の約2世紀半にわたる支配から脱したのは、商業都市モスクワを中心<sup>(10)</sup>に勢力を伸ばしたモスクワ大公国であった。

### 【設問】

(1) ドニエプル川は次のページの地図に示された川のどれか。地図のア～コから適切な川を選び、記号で答えなさい。

- (2) キエフ公国の建国に先立って、その北に位置する毛皮交易の中心地につくられた国を何というか。
- (3) ハンガリー王国をたてたアジア系の人々を何というか。
- (4) この皇帝は誰か。
- (5) エルベ川は下の地図に示された川のどれか。地図のア～コから適切な川を選び、記号で答えなさい。
- (6) この時に設置された辺境伯領で、後に選帝侯領にもなった地域を何というか。
- (7) ドイツ騎士団領に隣接し、14世紀後半から16世紀後半までリトアニア=ポーランド王国を治めた王朝を何というか。
- (8) モンゴル軍が1241年にドイツ・ポーランド連合軍を破った戦いを何というか。
- (9) ロシア人はこの支配のことを何と呼んだか。
- (10) ビザンツ帝国最後の皇帝の姪と結婚したモスクワ大公で、ローマ皇帝の後継者としてツァーリをはじめて自称したのは誰か。



Ⅱ 次の文章を読み、下線部(1)～(11)について下記の【設問】に答え、解答用紙の所定の欄にその答えを正しく記入しなさい。(30点)

18世紀から19世紀初頭には、イギリスとフランスが世界商業の支配権と海外植民地の争奪をめぐる激しい勢力争いをくり広げた。両国はスペイン継承戦争やオーストリア継承戦争などのヨーロッパにおける戦争と並行して、植民地でもたびたび軍事的に衝突した。とくに世界的な規模で展開した七年戦争中には、ブラッシーの戦いでイギリス東インド会社軍がフランス・ベンガル太守連合軍を破り、インドの領域的支配の端緒をつくった。七年戦争に勝利したイギリスは、広大な海外植民地からなる帝国を形成し、産業革命を迎えていた同国の製品市場や原料供給地として利用することで工業化をさらに進展させた。対照的にフランスは北アメリカにおける領土をすべて失っている。イギリスが相次いで対仏戦争に勝利した背景として、財政制度と金融市場の整備による大量の国債発行と重税の徴収を通して、巨額の戦費調達に成功したことが挙げられる。

しかし、相次ぐ戦争によってイギリスとフランスはともに深刻な財政危機に見舞われ、そのことが18世紀後半の国際情勢に多大な影響を及ぼした。イギリスは七年戦争後の財政危機に対処するために、北アメリカの13植民地に対する課税強化をはかった。こうした本国の政策が植民地の強い不満と抵抗運動を引きおこし、1775年には独立戦争の口火が切られた。植民地側の軍隊は当初苦戦したが、フランス、スペイン、オランダの参戦やヨーロッパ諸国からの義勇兵の参加もあり、戦局を好転させることに成功した。1780年代初頭に敗色が濃厚になったイギリスは、パリ条約でアメリカ合衆国の独立を正式に承認する。イギリスが帝国の再編を余儀なくされる一方、度重なる戦争に関与してきたフランスの国家財政も破綻寸前であった。その再建にむけた財政改革が試みられたが、貴族などの特権集団の抵抗により政治的危機が生じ、旧制度を崩壊させるフランス革命が始まることになる。国外からの反革命の動きが活発になると、1792年のオーストリアへの宣戦を皮切りに、フランスはイギリスを含む諸外国との戦争に突入する。総裁政府の統治下でも政局が安定しない中、ナポレオン=ボナパルトが軍事的指導者として頭角をあらわし、フランスはヨーロッパ大陸の広大な地域をその支配下においた。しかし、フランス軍はロシア遠征に失敗し、1815

年にはワーテルローの戦いで大敗を喫した。これにより、18世紀以来のイギリスとフランスの断続的な戦争に終止符が打たれた。

【設問】

- (1) ユトレヒト条約でイギリスはスペインに対する奴隷の独占的供給権を獲得した。18世紀にはアフリカ各地でヨーロッパ諸国との奴隷取引を重要な活動とする複数の「奴隷貿易国家」が台頭した。アフリカ大陸西岸において、ベニン王国と並んで奴隷取引によって隆盛し、19世紀末にフランスの植民地とされた黒人王国の名前を答えなさい。
- (2) a. 七年戦争のきっかけは、オーストリア継承戦争時にプロイセンがある地域を奪ったことにあった。オーストリアが奪回しようとしたこの地域は何というか。  
b. 七年戦争と並行して、北アメリカを舞台にイギリスとフランスの間で行われた植民地戦争の名前を答えなさい。
- (3) この戦いで東インド会社軍を指揮した人物の名前を答えなさい。
- (4) 1765年に東インド会社はベンガル地方などの徴税権を獲得し、その後インド各地で現地勢力に対する支配を広げた。同社は直轄支配地であるベンガル管区で、地主層・領主層を土地所有者として認定して納税させる制度を導入した。この制度の名前を答えなさい。
- (5) a. 産業革命によって都市部に人口が集中し、都市化が急速に進んだ。18世紀に奴隷貿易で著しく成長し、同世紀末以降には近接するマンチェスターで生産される綿製品の輸出港として繁栄したイギリスの商業都市の名前を答えなさい。  
b. 19世紀に入るとヨーロッパ諸国でも工業化が進展した。ドイツでは1830年代の関税同盟の発足により、広い領域をカバーする統合的な市場の形成と工業化が促進された。保護関税政策の必要性を説き、関税同盟の結成を提唱したドイツの経済学者の名前を答えなさい。
- (6) 17世紀初頭以降、北アメリカにおけるフランスの植民地経営の拠点として栄えたセント・ローレンス河口の植民地の名前を答えなさい。

- (7) 義勇兵として植民地側の軍隊に従軍したポーランド人で、のちに祖国の分割に抵抗した人物の名前を答えなさい。
- (8) 1787年には合衆国憲法が制定され、その重要な原則として三権分立が取り入れられた。1748年にフランスで出版された近代的な三権分立論を唱える著作の題名と著者の名前を答えなさい。二つあわせて正答とする。
- (9) 1770年代半ばに財務総監としてルイ16世に起用され、財政改革に取り組んだ重農主義者の名前を答えなさい。
- (10) a. 革命期のフランスでは、行政区画の変更、教会財産の没収、ギルドの廃止、共和暦の導入などの改革が行われた。こうした諸改革の一環として、度量衡の統一のために新たに導入された単位系を何というか。
- b. フランス革命の影響を受けて、フランス領イスパニョーラ島で奴隷による反乱がおこり、1804年に史上はじめての黒人共和国が成立した。その国名を答えなさい。
- (11) a. フランスはナポレオンの遠征によってエジプトを占領したが、まもなくイギリスとオスマン帝国の連合軍に敗れた。この混乱に乗じて、1805年にオスマン帝国のエジプト総督に就いた人物の名前を答えなさい。
- b. 1652年にオランダがアジアへの中継地として建設し、ナポレオン戦争中にイギリスが占領したアフリカの植民地の名前を答えなさい。

Ⅲ 次の文章を読み、下線部(1)～(15)について下記の【設問】に答え、解答用紙の所定の欄にその答えを正しく記入しなさい。(30点)

古来、ベトナムは、中国の文化的・政治的影響を強く受けてきた。前1000年紀後半<sup>(1)</sup>、ベトナム北部には、中国の青銅器文化の影響を受けたドンソン文化が生まれ、その後国家形成の胎動が見られたものの、前3世紀以降は、秦・南越・漢などに支配された。前2世紀末、漢の武帝は、ベトナムの北部に交趾郡、中部に日南郡<sup>(2)</sup>を置いて、南海交易の拠点にした。紀元前後、海の道を通じて東西交易が始まると、東南アジアは中継地の役割も担い、インド洋との交易も盛んになって、貿易ルート上の沿岸地に港町などが作られるようになった。中国を目指すインド系・ペルシア系の商人も来航するようになり、2世紀半ばには、大秦王安敦の使者を名のる者が日南郡を訪れた。<sup>(3)</sup>

前漢時代以来、北部ベトナムは中国に服属していたが、10世紀になると中国からの自立性を強め、11世紀初頭には紅河デルタを中心とした地域に李朝が成立した。続く、陳朝の時代<sup>(4)</sup>には、3度にわたる元軍の侵攻を退ける一方で、中部の沿岸地域への勢力拡大を試みた。国内的には、李朝期に中国から導入した科挙制度が、陳朝期にはほぼ定着し、地方行政組織も整えられた。15世紀初頭、ベトナムは一時的に明に併合されるが<sup>(5)</sup>、黎朝が独立を回復した。黎朝は、儒教や官僚制を積極的に受け入れ、中国に倣った国家の建設を進めると同時に、南進政策をとって中部から南部にまで勢力を広げようとした。16世紀に内乱が発生すると、17世紀に黎朝の支配は名目化し、実質的に南北に分裂した。中部を支配していた阮氏は、隣国のカンボジアを圧迫し<sup>(6)</sup>、南部のメコンデルタにまで勢力を伸ばした。18世紀後半に西山(たいそん)の乱を契機として農民反乱が全土に広がり、西山政権が南北統一を果たしたが、阮氏の子孫<sup>(7)</sup>である阮福暎が、フランス人宣教師などからの支援を受けて全国統一を成し遂げ、1802年に阮朝を建国した。

19世紀初頭の東南アジア大陸部には英仏が進出し、19世紀後半以降、シャム(タイ)<sup>(8)</sup>を除く東南アジアのほぼ全域は欧米諸国による植民地統治下に入るようになった。ベトナムは、フランスによる軍事介入の結果を経て、1887年にフランス領インドシナ連邦に組み込まれた。フランス植民地支配下のベトナムでは、1900年前後からナショナリズムが芽生え<sup>(9)</sup>、知識人が中心となって自立を求める意識が高まっていった。



1920年代には、独立を目指す民族運動が広がり、1925年にホー=チ=ミンらが広州でベトナム青年革命同志会を組織し、1930年にはベトナム共産党を結成した。直後に、ある国際組織の指導によって、同党はインドシナ共産党と改称され、ベトナムの独立運動を担う主体となった。<sup>(10)</sup>

1930年代初頭に中国大陸に進出した日本は、軍事衝突を繰り返し、1937年8月には全面戦争に突入していった。日中戦争が泥沼化していく中で、日本は石油資源等を求めて東南アジアへの進出を企てた。1940年にフランス領インドシナ北部、1941年にはフランス領インドシナ南部に進駐し、<sup>(11)</sup>さらに1942年5月までにフィリピン、シンガポール、ジャワ・スマトラなどに侵攻して、東南アジア全域をほぼ占領した。第二次世界大戦の間に植民地本国の支配力が弱まりだすと、東南アジア各地で民族主義運動が高揚し始め、日本がポツダム宣言を受諾して1945年8月に敗戦した後、同月にインドネシア共和国独立宣言、<sup>(12)</sup>翌月にベトナム民主共和国独立宣言がなされるなど、各国は独立に向けて動き出すことになった。

宗主国であるフランスは、ホー=チ=ミンによるベトナム民主共和国の独立宣言を認めず、1946年にフランスとベトナムの間にインドシナ戦争が勃発した。戦争は長引き、その間フランスは阮朝最後の皇帝バオダイを元首とする傀儡国家であるベトナム国を建て、ホー=チ=ミンのベトナム民主共和国に対抗させるなど、インドシナ地域からの撤退を容易に進めなかった。ホー=チ=ミンは当初劣勢に立たされていたが、1954年5月の戦いでフランスに大勝し、戦争の終結にこぎつけた。<sup>(13)</sup>1954年7月にフランスは、ジュネーブ休戦協定を締結してインドシナから撤退した。

ジュネーブ休戦協定では、北緯17度線を北のベトナム民主共和国と南のベトナム国の暫定的な軍事境界線と定め、二年後に南北統一選挙が実施される予定となった。しかし、アメリカは休戦協定に調印せず、東南アジアの共産主義化を恐れ、1955年にゴ=ディン=ジエムによるベトナム共和国の樹立を後押しした。こうして、ベトナムは分断国家としての道を歩むことになり、新たにアメリカがベトナムに関与することになった。1960年に南ベトナムの解放を目指す南ベトナム解放民族戦線が結成されると、アメリカは、ベトナムへの介入を強め、1965年には北ベトナムに爆撃（北爆）を開始した。<sup>(14)</sup>ベトナム戦争は長期化し、最終的に1975年4月まで続いた。1976年に正式に南北が統一されてベトナム社会主義共和国が誕生したが、しかし、社会主

義路線による国家建設は難航した。ベトナム政府は、1986年から、対外開放政策を<sup>(15)</sup>採用し、経済の活性化に努めた。

【設問】

- (1) ドンソン文化を代表する青銅器で、祭器や支配者のシンボルとして使用されたものを何とよめるか。漢字で答えなさい。
- (2) 2世紀末に日南郡から独立したチャム人の国から、8世紀に日本の東大寺大仏開眼供養に僧侶が参加した。このチャム人の国を何とよめるか。漢字で答えなさい。
- (3) 大秦王安敦とはローマ皇帝の誰とされているか。
- (4) 陳朝時代に、漢字を改造して発明された文字を何とよめるか。漢字で答えなさい。
- (5) ベトナムに出兵した明の皇帝の名は何とよめるか。漢字で答えなさい。
- (6) 阮氏はベトナム中部のフエに都を置き、日本の朱印船とも通商し、近隣には日本人町が存在した。当時日本人町があり、現在世界遺産に登録されている町の名を何とよめるか。カタカナで答えなさい。
- (7) 阮福暎を個人的に支援し、フランスから義勇兵を連れてきた宣教師の名を何とよめるか。
- (8) チュラロンコン（ラーマ5世）は、ヨーロッパ諸国による植民地支配からシャム（タイ）の独立を維持し、近代化を推進した。この近代化政策を何とよめるか。カタカナで答えなさい。
- (9) 日露戦争の勝利に触発されたファン＝ボイ＝チャウらによって提唱された日本への留学を奨励する運動は何か。カタカナで答えなさい。
- (10) この国際組織を何とよめるか。
- (11) 日本のフランス領インドシナ進出時に、ベトナムの独立を目指して結成された民族統一戦線を何とよめるか。
- (12) インドネシア共和国の初代大統領スカルノは、インドネシア独立運動の指導者であったが、彼が中心となって1927年に結成した政党を何とよめるか。
- (13) 1954年5月に、フランスが大敗したベトナム北部の場所はどこか。
- (14) 1965年に北ベトナムへの爆撃を開始したアメリカ合衆国大統領の名を何とよめるか。
- (15) この経済開放政策を何とよめるか。カタカナで答えなさい。

IV 次の文章を読み、下線部(1)～(10)について下記の【設問】に答え、解答用紙の所定の欄にその答えを正しく記入しなさい。(20点)

人間は古来海と海とを介してさまざまな活動を営んできた。フランスの歴史家フェルナン=ブローデル<sup>(1)</sup>は、その空間を「海域」とみなし歴史叙述を試みた。『フェリペ2世時代の地中海と地中海世界』において、ブローデルは、地中海とその周辺に位置する国々や地域、およびそこで活動する人々を一つの場を共有する「地中海世界」として描こうとした。やがて地中海よりも壮大なインド洋海域の歴史研究も発展していった。

こうした海域の歴史は、インド洋海域や南シナ海海域などにもみることができる。インド洋ではすでに1世紀頃からモンスーン（季節風）<sup>(2)</sup>を利用して、アラビア半島からインド西岸を往復する航海術が開発されていた。これによって海上交易が盛んになり、地中海世界との間で多くの交易品が運ばれた。

8世紀、アジア、アフリカ、ヨーロッパを結ぶ地域にイスラーム世界が成立した。イスラームは商人の倫理を重んじ、メッカ巡礼路の安全を確保して、人、もの、情報の移動を可能とするネットワーク型社会を促進してきた。イスラーム世界では、海域世界と陸域に広がるイスラーム都市がネットワークを形成してきた。ムスリム商人は、インド、東南アジア、南中国の港市にもおもむくようになった。10世紀ごろから、<sup>(3)</sup>それまで<sup>(4)</sup>陸路に置かれていた東西交易の重要性が海上交易にシフトして海域世界が発展する。南シナ海交易では、インド洋に本拠地をもつムスリム商人がそれまで数多く来航していたが、中国商人が南シナ海交易の主体となった。元の時代には、海路を利用した人の行き来も活発に行われた。<sup>(5)</sup>海域世界では、往來を維持するために、航海活動の拠点となる港市が結節点として機能し、遠距離交易にも耐える船が活躍した。<sup>(6)</sup>

また、アフリカ東海岸へのルートが活性化し、東アフリカが本格的にインド洋交易に組み込まれ、インド洋を中心とするムスリム商人の海洋ネットワークが形成された。東アフリカの沿岸部では、ムスリム商人の来航と共に諸港市が交易の拠点として発展した。<sup>(7)</sup>

10世紀後半のバグダードの政治的混乱の影響を受けて、主要航路がペルシア湾ルートから紅海ルートに移った。やがてカイロがイスラーム・ネットワークの中心となり、この地域を支配したアイユーブ朝とマムルーク朝は紅海ルートの交易を掌握し

た。このような商業活動は、イスラーム法に基づいた取引、アラビア語やペルシア語という共通語の広がり、イスラーム世界で流通していた貨幣、イスラーム世界で発達した商慣行である協業組織にも支えられていた。<sup>(8)</sup>

14世紀が生んだ大世界旅行家イブン=バットゥータのインド洋横断の旅は、とりわけ躍動感に満ちあふれたものであり、彼の『大旅行記』のなかでインド洋海域世界とともに生き生きと描かれている。

インド洋海域世界は、ヨーロッパ勢力が進出する16世紀までは、比較的平和な海域であった。15世紀末にインド洋航路を開拓したポルトガルは、武力で交易ネットワークを支配しようとした。<sup>(9)</sup>しかし軍事的優位は長く続かず、アラビア海の交易を独占できなかった。1517年にマムルーク朝を滅ぼし紅海ルートを手に入れたオスマン帝国は、貿易や東方からのメッカ巡礼のルートの確保のために、インド洋への関心を強めた。

#### 【設問】

- (1) 彼の主張によれば、西ヨーロッパは1571年の海戦においてオスマン帝国の海軍を打ち破って、ようやくイスラームの地中海支配に終止符を打ったという。この海戦の名を答えよ。
- (2) このモンスーンを利用して遠洋航海を行う貿易商人のために1～2世紀ごろエジプトに住むギリシア人航海者によって記されたといわれる著作は何と呼ばれるか。
- (3) 14世紀に成立しカリカット・クーロンなどの港市を支配した南インドの王国は、インド洋交易でうるおい、ヒンドゥー王国でありながらイスラーム文化を受容していた。この王国は何と呼ばれるか。
- (4) マラッカ海峡沿いのマレー半島やスマトラ島の沿岸には、多数の港市国家が誕生した。いくつかの港市国家は連合して宋に朝貢した。この連合国家を何というか。

- (5) イタリアのフランチェスコ会修道士で、ローマ教皇の使節として、イル=ハン国を経て海路で1294年大都にいたり、初代大都大司教に就任した人物の名を答えよ。
- (6) インド洋の遠距離交易で用いられたムスリム商人の帆船を何というか。
- (7) 15世紀末に喜望峰をまわって来航したヴァスコ=ダ=ガマが寄港し、ムスリムの水先案内人とともにカリカットに向けて出発したところとして知られる港市はどこか。下の地図の中から記号で選び、またその名称を答えなさい。
- (8) アラビア語やペルシア語が共通の商業用語となり、イスラーム世界の金貨がインド洋一帯に流通するようになった。この金貨は何と呼ばれるか。
- (9) イブン=バットゥータは東アフリカ海岸を旅しているが、この地域では、ムスリム商人が移住してきたことにより、在地の人々の言語であるバントゥー系の言語とアラビア語が交じり合った商業用語として成立した言語が普及した。この言語は何と呼ばれるか。
- (10) ポルトガルは1510年インド西岸の港市を占領し、総督府をおいてアジア進出の拠点とした。この港市はどこか。下の地図の中から記号で選び、またその名称を答えなさい。

